

たきかわ環境フォーラムの

# 東滝川 コウモリ調査



滝川市東滝川のとある大型農機具庫内で2012年7月、希少種カグヤコウモリ (*Myotis fischeri*) の集団が発見され、同種としてはまれにみる大規模集団であることが示唆されました。そこで当フォーラムは、オサラツペ・コウモリ研究所 (旭川市)、森林総合研究所北海道支所 (札幌市)、北海道滝川高校理科などの協力と、財団法人北海道新聞野生生物基金の資金助成を得て、2013年5月から11月にかけて、詳しい生息調査を実施しました。その結果、以下のような事実が判明しました。

①最盛期には少なくとも500頭以上のカグヤコウモリがこの大型農機具庫を利用している。

②カグヤコウモリの日没後の飛び出し個体数は6月初旬から下旬にかけて急増し、8月下旬から9月にかけて急減する。

③カグヤコウモリ集団の一晚の活動パターンに時期ごとの違いがある。

④カグヤコウモリ集団の農機具庫利用はおおむね5月から10月まで続く。

⑤カグヤコウモリの日没後の飛び出し個体は、7月初旬には成体メスに限られる。8月初旬以降は成体メスと幼体 (当歳) の混成に移行する。

⑥同じ大型農機具庫を、ニホンウサギコウモリ (*Plecotus sacrimontis*) ほか数種のコウモリ類が利用している。

この貴重な自然環境がいつまでも失われないように、当フォーラムは2014年度以降もコウモリたちのモニタリング調査を続けていきます。

# カグヤコウモリは、 こんなコウモリ

背中の体毛は褐色または暗褐色で、幼獣は青みがかっています。50キロヘルツ前後の音波を用いて暗闇を自在に飛行し、小型の夜行性飛翔昆虫などを補食します。樹洞や隧道、家屋、巣箱、橋梁をねぐらとし、このうち樹洞、家屋、巣箱での出産・哺育が確認されています。出産時期は6月中旬から7月下旬ごろ。

ロシア沿海州から朝鮮半島にかけての1帯、中国・内モンゴル自治区、黒竜江省、安徽省、四川省、江西省、福建省と、日本列島の本州と北海道に、互いに離ればなれの生息地を持ち、日本列島では滋賀県以東以北で固有亜種 *Myotis frater kaguyae* が確認されています。



## 捕獲調査のようす（7月）

特別な許可を得て、ねぐらの出口にカスミ網を仕掛けました。日没から30分が経つころ、ねぐらから一斉に飛び出していくコウモリたちを生け捕りにしました。



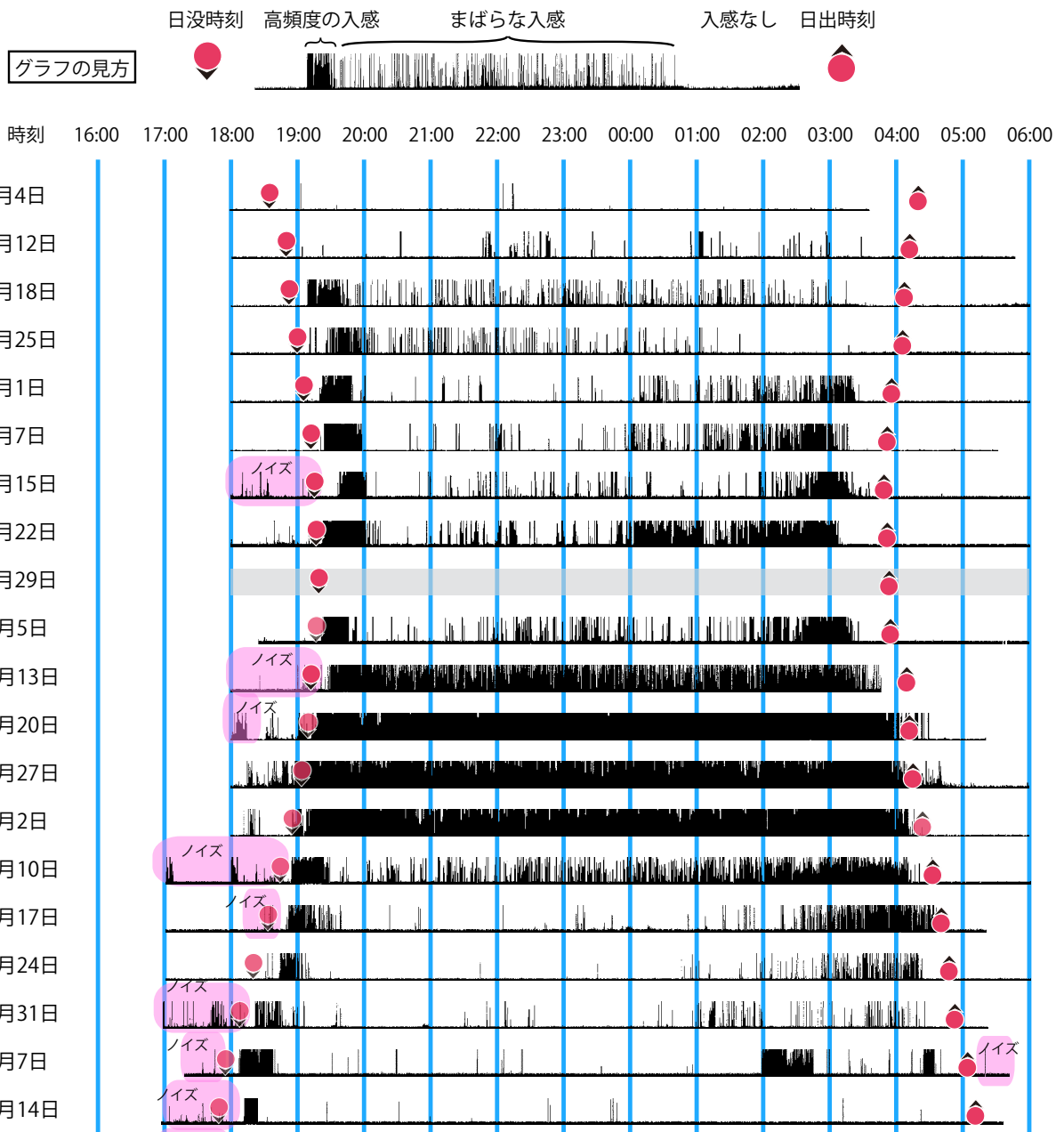
## コウモリ計測のようす(7月)

生け捕りにしたコウモリの体重や身長を一頭ずつ測定しているところ。腕に極小の標識リングを取り付けてから放しました。



# カグヤコウモリの ひと晩の活動のようす

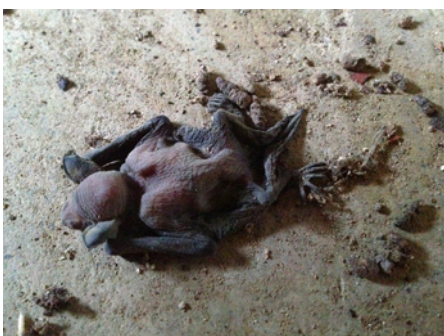
バットデテクターという超音波検知装置をねぐらに仕掛けて記録すると、こんなグラフを描くことができました。黒い部分が、コウモリたちが盛んに鳴き交わしている時間帯。人間の耳には聞こえませんが、真っ暗闇の中でコウモリたちは一晩中、こんなににぎやかに活動していました。



# ねぐらの床で見つけた コウモリたち



夏の最盛期、ねぐら（農機具庫）の床を探すと、落ちて飛べなくなっているコウモリがよく見つかりました。ほとんどは生まれたばかりの赤ちゃんコウモリでした。きつとうっかり落下してしまっただけでしょう。このねぐらは、カグヤコウモリの母親たちが出産と子育てをするために利用していたのです。（北海道立滝川高等学校理数科チーム調べ）



## たきかわ環境フォーラムとは

市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、ひとつのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ!」。私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、ちよつとずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。



コーヒー片手にエコ談義! たきかわ環境フォーラムの「エコカフェ」は、市民のみなさまにたいへんご好評をいただいています。